

朝日町宝ノート No.0704

「五百川峡谷の自然」

素晴らしい自然が残っている

五百川峡谷は、何度かボートで下っているが、とにかく素晴らしい自然が残っている。他の所と違って川岸が切り立った崖なので人の手が入っていない（入れない）から、自然の迫力や豊かさ、景観の素晴らしさを見ることが出来る。この魅力は、道路から見下ろしても分からない。実際に川を下りながら見ると、川の持っているパワー、大自然のエネルギーを感じる。「こんなにも違うのか？」と思ってしまう。感動の大きさは数百倍違うね。



五百川峡谷の切り立った断崖に残る自然

川岸は貴重なサンクチュアリ

川岸は変化の大きい自然といえる。崖が崩れたりする不安定な場所は、パイオニア的な植物が多い。樺類をはじめとして水に強い樹木が多く、大木もけっこうある。切り立った川岸では、太くなりすぎると支えられなくなってしまうので巨木とまではいかないが、それでも太い木はいっぱいある。

なにより、人が入れないので、生き物たちのサンクチュアリ（逃げ場）になっていて、とても貴重な場所といえる。

以前、仲間と静かに五百川峡谷を下った時には、青鷺や五位鷺、ヤマセミなどがたくさんいた。特に五位鷺は、四畳半くらいの柳の茂みから 100 羽以上出てきて驚かされた。ヤマセミは、数十メートルに 1 羽は出てきた。この鳥は、奥山に行かないとなかなか見られないから一般的に憧れの鳥となっている。町の中でこんなに見られるのはとても珍しいこと。鳥を観察する人たちにとってはとてもおもしろい場所ではないか。

根源の自然を感じる

日本の自然を象徴できるのは、森と川だと思っている。森がなければ川はないし、川がなければ森が育たない。川は、接してみなければ理解できない自然です。多くの人に、素晴らしい五百川峡谷に接して感動して欲しい。きっと、自然の豊かさ、川の恵み、循環など、我々が生かされている根源の自然を感じてもらえるのではないか。

五百川峡谷の植物

- ・ 樺 - 日本の代表的な広葉樹で寿命も長い。川辺が故郷。
  - ・ シダ植物 - 崩れた土の所に生える。
  - ・ 鬼胡桃 - クルミ、特に野生のもの別称。
  - ・ 蔓梅擬き - 葉形がウメに似て、蔓になる。
- 他には、藤・ゼンマイ・蝦蟇・苔・こくわ・ほうの木・タラの木など

姉崎 一馬（あねざき かずま）氏

1948 年東京都生まれ。雑木林から原生林まで日本全国の森林をフィールドとする自然写真家。山形県朝日連峰山麓を活動の中心とした子どものための「わらだやしき自然教室」もボランティアとともに行っている。その活動が認められ、(財) 修養団より第 17 回蓮沼門三社会教育奨励賞を受賞。著書に『はるにれ』（福音館書店）、『日本の森大百科』（阪急コミュニケーションズ）、近著に『姉崎一馬の新自然教室—朝日連峰山麓』（山と溪谷社）、『はっぱじゃないよ ぼくがいる』（アリス館）など。

